

するのか? 論理に飛躍がある様な気がする。

回答 (大阪市大) 島津 隆

① 昇圧剤持続点滴 (Syntocinon ではありません) と羊膜腔内生食注入による高血圧作成との異りは胎盤血流量が同程度の場合, 前者は血圧上昇率と腎血流減少率において顕著であることを認めましたが, 正確にはこれらの parameter を妊娠中毒症の患者について対比することにより結論されると思いますが, 今日迄の人との検討に於て, mild toxemia の場合は羊水内圧のたかまりがその病因の一つとして考えてあります。

② 第29回日産婦の質疑応答を御参照 (詳細は) して頂きたいと思いますが簡単に説明すると子宮胎盤血管抵抗の増大, utero-renal reflex の介入さらには humoral factor 等の要因も考えております。

166. 妊娠中毒症における尿中 plasmin の動態とその生化学的性状—分娩, 産褥期を中心として—

(東京大)

陳 信夫, 中林 正雄, 金子 義晴
荻野 雅弘, 柴田 治郎, 佐藤 和雄
坂元 正一

(1) 目的: 妊娠中毒症の凝固線溶動態把握のため, 種々の型の妊娠中毒症の分娩, 産褥期における尿中 plasmin の経時的変化と, 尿中 plasminogen+plasmin (U-PLS) の生化学的性状を検索した。

(2) 方法: 尿中 plasmin 活性測定: lysine sepharose affinity chromatography-radiocaseinolytic method を使用, U-PLS の分析: antiplasminogen sepharose affinity chromatography で U-PLS を抽出し, SDS gel 電気泳動, 分離寒天電気泳動, sephadex gel filtration を施行。

(3) 成績: I) 尿中 plasmin が糸球体内線溶の良い指標となり, その分娩, 産褥期の値は, i) 正常妊娠 (20例) では分娩後4時間で最高となり, 産褥4日で旧に復した。ii) 妊娠中毒症の mild type (14例) では分娩前より産褥4日まで正常妊娠より有義 ($p<0.05$) に高値。iii) 妊娠中毒症の severe type で分娩後急速に改善した4例 (A) と妊娠中毒症後遺症を残した3例 (B) では共に分娩前, 正常値かそれ以下であつたが, 分娩後, A は正常妊娠より非常に高値で, B は正常妊娠と有意差がなかつた。iv) 子癇 (2例), 早剥 (3例) による DIC では発症後24時間までは異常値を示した。II) U-PLS の分析より, DIC では低分子の plasmin (分子量35,000~67,000) が多く, A の U-PLS と類似であつた。

(4) 独創点: I) 尿中 plasmin 測定による妊娠中毒症

予後判定の可能性を示唆した。II) U-PLS の生化学的分析により, 各症患の尿中 plasmin 性状の変化を明らかにした。

質問 (浜松医大) 寺尾 俊彦

① labor pain の発来とともに whole plasmin が増加する機序をどのようにお考えでしょうか。

② 私達は妊娠中毒症では胎盤性ウロキナーゼインヒビターが関与し, これが尿中に大量に排泄されるため plasminogen が大量にそのままで残り, plasmin にならないので whole plasmin 値が増加する検査成績が得られるものと思いますが,

回答 (東京大) 陳 信夫

① 重症妊娠中毒症の分娩前に尿中 whole plasmin が多く, plasmin が少ないのは糸球体内線溶の低下と考えます。

② urokinase の問題について, 私達も大変興味を持って御座いますので, 持田製薬より, 提供された高純度の urokinase (BW. 3万3千, specific activity 22万4千 unit/mg) で, 兎を, 免疫して, 抗血清をつくりました。これからは, 妊娠中毒症との関連を検討したいと考えておりますので, 先生の御意見, 大変参考になります。

167. 妊娠中毒症における抗凝固線溶系に関する動物実験的研究

(熊本大)

本原 信幸, 八木 剛志, 稲生 英俊
中山 道男, 前山 昌男

目的: 晩期妊娠中毒症の病態に関し凝固線溶系の関与が注目されてきた。そこで今回は中毒症進展因子であると考えられる, いわゆる DIC について動物実験的に検討を加え, 更に抗凝固線溶療法の本病態に及ぼす効果について検討を加えた。

方法: 非妊および妊娠 Rat に対し組織トロンボプラスチンを含むと考えられる Placental extract および胎児死亡をおこす作用を有する Estradiol 投与により DIC を作製し, 腎および胎児胎盤系におよぼす影響について検討を加えた。その投与法は placental extract の場合, タンパク量として5 mg/day を2日間にわたり静注, また Estradiol は10 μ g/day を妊娠第12日目より3日間にわたり筋注した。更にそれらの Rat に対し抗凝固剤である Heparin, 線溶剤である Urokinase を投与しその影響を検討した。

成績: Placental extrat および Estradiol 投与により血中 fibrinogen の減少および FDP の上昇をきたし血凝